別紙様式1

令和8年度　学校評価表　（ 中間・最終 ）　学校名　三原市立沼田小学校　校番（ 10 ）

a 学校教育目標	心豊かに　かしこく　たくましく	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】（自校の使命）　志を抱き、自らその実現に向けて考え、行動できる未来の創り手の育成 【ビジョン】（自校の将来像）　組織の一員としての自覚をもち、新たな教育活動の創造に向け、協働できる教職員が創る学校

評価計画						自己評価					改善方策	学校関係者評価			
	c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10 月 h 達成値	2 月 h 達成値	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価 イ	ロ	ハ	m コメント
確かな学力	主体的で探究的に学ぶ児童を育成する。	基礎・基本の学力の定着と思考力・判断力・表現力の育成を図る。	・授業改善 基礎・基本の学力の定着 ・帯タイムや家庭学習による繰り返し学習の徹底 ・漢字検定・計算検定テスト（学期毎）の取組	・算数科の単元テスト（確認テストも含む） 知識・技能 到達率70%未満 思考・判断・表現 到達率70%未満 ・漢字検定・計算検定テスト合格 90点以上（再テストも含む） ・R80を毎時間シェアしている児童の割合【R80】（児童アンケート） ・算数科の授業内で、適用題を1問以上実施した割合	0人 90%以上 100% 85%以上	0人 100% 90% 90.5%		100 111 90 106	A A B A	・確認テストを含めて、全児童が到達率70%以上を達成した。一方、確認テストを含めない場合、到達率70%未満の児童が、「知識・技能」1人、「思考・判断・表現」10人いる。 ・漢字検定90点以上の児童の割合100%、計算検定90点以上の児童の割合100%であった。児童によって、取組姿勢に差があり、定着に時間がかかる児童もいる。 ・R80をシェアしている児童の割合は100%近くになっているが、すべての児童が「できている」と言い切れていない。 ・算数の授業内で適用題をほとんど実施している。適用題の実施が定着しつつある。適用題の実施をすることで、R80を合わせて児童が本時の授業内容を理解しているか明確になった。	・引き続き、確認テストで積み残しがないようにしていく。また、ぐんぐんタイムを活用し、各単元の復習を繰り返し行っていく。ミライシードを活用し、家庭学習でも現在学習している内容の他に既習の内容にも取り組める課題を出し、学力の定着を図る。 ・問題解決や説明の際に、何を「基準量」として考えたのかを意識させた授業を行う。 ・児童が粘り強く取り組めるよう、検定に向けて職員室の職員を含めた全職員で児童に向き合ったり、各々が目標をもって学習したりすることができる取組を考え、実践していく。 ・本時の学びを的確に表現できるよう、授業の残り5分でR80の記入と、シェアを確実に行っていく。 ・引き続き適用題を確実に実施し、学習内容の定着につなげる。	○			○紙コップ（青：わかっている　黄：まあまあわかっている　赤：よくわからない）で児童が今の状態を他者に発信し、互いに関わらせながら学びを深めるための手立てをとっているのはよい。 ○児童の考えを引き出すための教師の意図的な待ちの姿が効果的であり、児童は自分の言葉で意見をまとめるうちに、理解を整理し学びを深めることにつなげられている。 ●児童の基礎基本のおさえるべきポイント（漢字書き順、句読点のうち方　等）と、児童の個々の状況（発達障害等での困難さ）とのバランスを調整しながら、児童がそれぞれに力をのばせるようにしていただきたい。
豊かな心・健やかな体	心も体もたくましい児童を育成する。	認め合い支え合い、自ら伸びる、ともに伸びる児童を育成する。	自分たちで決めた目標の達成に向けて粘り強く取り組むことを通して、自己有用感や集団の意識を向上させる。	・前と比べて良くなったと感じている児童の割合 ・「体を動かすのが好き」と答えた児童の割合 ・児童会活動を中心に、学校をよりよくすることに貢献できたと思う児童の割合	80% 80% 80%	95% 88% 100%		119% 110% 125%	A A A	・前の自分と比べてよくなったと感じている児童の割合は95%で、目標値を達成することができた。保護者アンケートでも、「わが子は自分のよい所を知っている」という質問に対して、92%の保護者が肯定的な回答をした。成長の実の活動を通して、自分の良いところを見つけることができたため、4月より、自己肯定感が上がった。また、新たな成長の実のテーマである「友達の良いところ見つけ」は、他者評価を通して、自己を客観的に見つめることができた。更に毎時間の「R80」のシェアにより、互いを認め合うことで、自己実現、自己肯定感、達成感等の向上につながった。 ・「体を動かすことが好き」という質問に対して、肯定的な回答をした児童の割合は88%であった。健康委員会による健康タイムで「ドッジボール」や「しっぽ取り」「サッカー」などを行い、児童自ら、企画・運営をし、全校で楽しく遊ぶことができた。いくつかの項目に対して、同じ児童が否定的な回答をしている点が課題である。 ・「児童会活動を中心に学校をよりよくことに貢献できたと思う児童の割合」は、100%であった。全児童が意欲的に児童会活動に参加している。児童会による「わくわく遊び」、図書委員会による「読み聞かせ」「本のくじ引き」、環境委員会による「ピカピカタイム」、2年生による「スリッパ揃え」など、たくさんの取組を企画し、運営できた。活動の中で、学校をよりよくするためには、自分たちで考え、実践できたことが、今回のアンケートの結果につながった。	・引き続き、好ましい人間関係の構築を目指した学級経営を基盤にし、校内全体での掲示や放送、毎時間での「R80」のシェアを通して、互いに認めあえる集団づくりを目指す。 ・猛暑により、外遊びができない時期があったため、今後は室内でも体を動かせる遊びを考え、実践していく。運動が苦手な児童であっても、楽しく参加できる取組を引き続き、実践していく。 ・この高い数値が維持できるよう、児童会や委員会の活動の活発化を継続し、児童が企画・実践・評価を実感できる場を持たせることで自己肯定感・達成感・上級生へのあこがれ等の向上を目指して様々な児童主体の活動に取り組んでいく。	○			○委員会活動に合わせて、低学年も学校をよりよくする活動に取り組んでおり、全校で活動できていることはよい。引き続き児童の自己肯定感・自己有用感を高めるよう、取り組んでほしい。 ○児童が楽しんで体を動かすことに重点をおいて取り組まれているのは、よい。運動が苦手と感じている児童も、抵抗感なく参加できているようで、取組を継続していただきたい。 ●先生方には、「環境づくり」（児童の安心安全を保つこと）と「しりぬぐい」（失敗はつきものであることを前提に失敗後にきちんと対応すること）に取り組み、児童がのびのびと育つように引き続き取り組んでいただきたい。
信頼される学校	学校と保護者・地域及び関係機関との双方向の信頼関係を構築する。	コミュニティ・スクールを核とした地域との協働を通して地域が好きと実感できる児童を育成し、地域に開かれた信頼される学校の構築を図る。	働き方改革の推進 校務支援システム等、ICT機器を活用し、 ・スケジュール管理の徹底を図る。 ・各部、各委員会の組織的な取組を進める。 ・PDCAサイクルを充実させる。 地域教材を教育課程に位置付け、児童に地域の良さを実感させる活動や学習を進める。	・定時退校日の完全実施。 ・年間を通して勤務時間外の上限時間を超えない。 （月30時間以内・年間360時間以内） ・「地域の良いところを知っている」と答えた児童の割合	100% 80%以上	100% 100%		100 125	A A	・毎週水曜日を定時退校日とし、完全実施を行うことができた。また、年間授業時数が多くならないように、児童が13時30分に下校する日にも、定時退校に努めた。結果として時間外勤務は、月30時間を下回っている。 ・前年度に引き続き、定時退校日について職員全員が意識した働き方ができている。また、各部・各委員会で行事や校務等、見通しを持って計画的に協働して進めることができている。 ・「地域の良いところを知っている」という質問に対して肯定的に回答した児童は100%であった。昨年度の取組を引継ぎ、教育課程に位置付けて計画的に学習を進めている成果と言える。 ・「わが子が地域のことを学習したり、地域の方と一緒に活動したりするのを知っている。」という質問に対して、肯定的に回答した保護者は、82.9%（未回答を含まなければ94.4%）であった。児童が地域の良さを実感し、保護者にもその良さを伝えるまでには至っていない。	・働き方改革の成果につながっている取組は、継続、維持させてていく。 ・準衛生委員会を活用して職員の意見を吸い上げ、より働きやすい職場となるように取り組む。 ・「地域の良さを知っている」とする肯定的回答を維持するとともに、より深く実感できるように計画的にまた意図的に工夫して学習を進めていく。 ・地域学習を行った際は、学級だよりや学校だより等でも取り上げ、家庭での話題につながりやすくすることで、児童が繰り返し、地域の良さを振り返る機会を増やしていく。 ・学校運営協議会を活用し、地域と保護者との連携・協働の推進を継続する。	○			○地域活動については今後も計画的に実施していく。児童が地域の良さを実感できるように、取組を続ける。 ●コミュニティ・スクールでは、学校教育目標にそって、地域の方に協力してもらう趣旨であることを改めて理解した。今後も地域の町内会との連携をとりながら、できることをやっていく。

【j：自己評価　評価】
A：100≦（目標達成）　B：80≦（ほぼ達成）＜100
C：60≦（もう少し）＜80　D：（できていない）＜60

【l：学校関係者評価　評価】
イ：自己評価は適正である。　ロ：自己評価は適正でない。
ハ：分からない。